

第55回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成31年2月15日（金）午後7時00分～午後9時03分

場 所 前原暫定集会施設1階A会議室

出席委員 10人

委員長 日向信和 委員

副委員長 渡邊大輔 委員

委員 岡田一美 委員 村田 淳 委員

鴨下明子 委員 森田真希 委員

中村彰宏 委員 天野建司 委員

加藤明彦 委員 鹿子木将登 委員

欠席委員 2人

荒城真美 委員 本田哲朗 委員

事務局職員

企画政策課長 梅原啓太郎

企画政策課主任 東條俊介

企画政策課主事 齋藤彬子

傍聴者 0人

（午後7時00分開会）

◎日向委員長 皆さん、こんばんは。それでは、第55回市民参加推進会議を始めさせていただきます。

なお本日は、本田委員から欠席の連絡が入っております。加藤委員から出席が出来るとの連絡をいただいております。岡田委員と荒城委員は特に御連絡はいただいておりますが、後ほど来られるものと思われまます。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条に、半数をもって成立することになっております。現在、12人中8人御出席いただいておりますので、本会議は成立しているということで御報告を申し上げます。

会議に先立ちまして、今回は御覧のとおり試行的に座席を変更し、事務局を委員の皆さんと並べる形で配置をさせていただいております。

それでは、配付資料について、事務局のほうで確認をお願いします。

◎事務局 それでは、資料の確認をさせていただきます。事前に郵送及びメールさせていただいたものが4点、本日机の上に配付しておりますものが1点ございます。

まず、次第としまして、本日の次第、A4一枚のものでございます。それから資料1としまして「ワークショップ「こが☆カフェ」ファシリテーター感想（要旨抜粋）」、こちらもA4一枚のものになります。次に資料2としまして「第7期小金井市市民参加推進会議提言（たたき台）」、A4二枚、つづっているものです。資料3としまして「第7期推進会議行程表」、A4一枚になります。最後に、お手元に前回第54回の会議録をお配りしております。これは既に確定し、ホームページにも掲載しているものになります。後ほど御確認をいただければと思います。

以上5点、不足しているものがございましたらお申し出いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

よろしくお願いたします。

◎日向委員長 それでは、次第に沿って進めたいと思います。

次第2、市民参加条例運用状況等について。（1）今期の提言に向けてを議題といたします。

それでは、事務局から配付した資料の説明をお願いします。

◎事務局 それでは説明させていただきます。資料1「ワークショップ「こが☆カフェ」ファシリテーター感想（用紙抜粋）」を御覧ください。

一部の委員の方々にも御参加、また傍聴いただきましたが、昨年12月8日、土曜日に開催したワークショップの際に、ファシリテーターを務めた方々からいただいたアンケートの要旨を抜粋したのものになります。

このワークショップ「こが☆カフェ」では、小金井市の最も大きな計画であります基本構想、基本計画を策定するに当たって開催をしております、グループに分かれてのワールドカフェ方式で行いました。

結果として、参加者は44名お越しになり、9グループに分かれて討論を行い、議論も非常に盛り上がりました。

その際に、グループごとの進行役、ファシリテーターとなっていた、東京農工大学の学生さんたちと市職員から、後日いただいているアンケートを集計したのものになります。

今期の提言を考えていただくに当たり、ワークショップの実例ということで、参考として配付させていただきます。

また、資料2「第7期小金井市市民参加推進会議提言（たたき台）」を御覧ください。

前回の会議でお話をいただいたとおり、今期の市民参加推進会議の提言の取りまとめにつきましては、今回と次回の第56回で内容を確定してまいりたいと考えております。本日配付しておりますのは、渡邊副委員長に作成をいただきました提言のたたき台になります。このたたき台をもとに御議論をいただき、提言をまとめていただきたいと思います。

資料の説明は以上でございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。

まずは、12月に開催されましたワークショップ「こが☆カフェ」に、渡邊先生、中村委員

が参加されました。あと私も傍聴させていただきました。

今期の提言を考えるに当たり、このワークショップの感想や参加された方の御意見を参考にしたいと考えておまして、資料1を準備していただきました。

御感想などいただければと思います。すみません、指名させていただきますが、まずは参加した方として中村委員、御感想等あればお願いいたします。

◎中村委員 ちょっと、大分前のことで、あまり記憶力がよくないのであれなのですが、非常に、市のこの手の催しは割とかたい感じが多いことが大半なのですが、非常に、市の職員の方々がかなり周到的な準備をされたおかげで、割と友好的な。皆さん、初対面の方がほとんどだったのですが、そういう仕掛けをうまく設定されたおかげさまで、非常に、初対面にもかかわらず、打ち解けた雰囲気醸し出されて、非常に成功裏に終わったのではないかと、結論的なことを申しますとそんな感じです。

出た意見も非常に前向きで、それぞれの参加者の方々の高い意識と、小金井市をよくしていこうという熱い思いが伝わった、非常に建設的で、いい会議ではなかったかなと思います。改めて、段取りしていただいた市の職員の方々に御礼申し上げます。

◎日向委員長 ありがとうございます。

では齋藤さん、いかがでしょうか。

◎事務局 私も当日、ワークショップの参加の一員として、ファシリテーターではないのですが、一員として参加をさせていただきました。ワークショップに参加するのは初めてだったので、どういう雰囲気で行うのかということも、まずは感じてみるころからということだったのですが、実際、やはり友好的な雰囲気を進めるというのを目的としてやっていたので、思ったほど怖い場ではないなというのが感想でした。

実際、どういう場なのかということのを今回で理解することができたので、次、じゃあファシリテーターとしてやってみて、ということになったら、流れは想像ができるので、それも準備をすればできないことはないかなというところまで、思うことができました。

なので、市職員としては、やはりまずは体験してみることが一番いいんじゃないかなと感じたのが、今回の「こが☆カフェ」での感想です。

◎日向委員長 では渡邊副委員長、いかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 私自身は参加というか、学務の都合もあったので、若干おくれて到着して、傍聴させていただきました。3ラウンドしていると思うのですが、その1ラウンドの最後か、ちょうど間ぐらいのところから傍聴させていただいております。

まず、先ほど中村委員からもありましたが、非常にいい雰囲気で、楽しそうなんですよ。ちょうど、ここに報告書とかが。これも、この報告書もいいなと思っているのですが、市の報告書のほうに、スライドで、すごいかわいくでき上がっていて、写真もふんだんに使われていて、皆さんが楽しくやっているという雰囲気があります。

タイトルも、こういうのをやると、「基本計画構想のためのワークショップ」とか、そうい

う何もおもしろさがないものではなくて、それをカフェだと言い、店長というものを設定し、そこでみんなで、カフェでまちについて語らうみたいな感じのコンセプトをやっているところは、非常によいと思います。まさに学生がやっているという感じがして、とてもよかったです。

一応、メモという形なので、結構長いのを送らせていただいています。例えば、いろいろなところがおもしろいなと思うのですが、1つは、一応全てのラウンドで、大体3人から5人ぐらいの参加者プラス、ファシリテーターがいるのですが、ファシリテーターは全員学生さんなのですが、これはまち研という農工大のサークルの学生さんがファシリテーターをやっています。でも、ファシリテーターをやっているのですが、みんなごく普通の学生の格好をしているので、ジーパンにシャツすら着ていないという感じで、ごく普通の格好。人によってはニットの帽子をかぶっているぐらい全然オッケーみたいな感じです。

それで、ファシリテーションをやりながら、ぼりぼりお菓子を食べているぐらいの感じで、でも、それって逆に言うとすごくカジュアルな雰囲気なので、皆さん、それに合わせて、自分たちも、お菓子とかがって、出してもなかなか、まず初めは手をつけないのですが、それも皆さん、普通に食べながら話せるという雰囲気ができていて、非常にアットホームな雰囲気です。楽しくやっている。いろいろな人が、世代を越えたり、結構ジェンダーバランスもよかったです。すごくいろいろな属性を持った人が1つのテーブルを囲んでいる、議論するという点では非常にいい効果があるなど。若い人も中年の人もお年寄りの人もみんないるというところが、非常によかったです。

ちなみに職員さんも、恐らく学生から指示をされて、皆さん私服で来るというところも非常によかったです。

その辺の運営というのは、学生側にノウハウがあったなという意味ですごくおもしろかったのですが、もう少しだけ引いて見ると、このワークショップの目的って何だったんだろうというところは、若干よくわからないところもありました。

要は、楽しく交流し、みんなで小金井市のまちの、つまり、非常に大きいテーマなんです。小金井市についてこういうことを話しましょう、みたいな感じで、現状とか、将来どうあってほしいとか、ある種ざっくりしているのですが、逆に誰でも語れるのですが、それをやったことによって何が次につながるかというのは、ちょっとよくわからないというのが正直なところです。

例えば、このワークショップの目的が、一応、基本計画の構想とか策定のためとなっているのですが、それがどうなってくるのかというのがよくわからない。ただ、例えば、市の現状の理解向上とか対話とか学習とか、参加意識の醸成が目的であれば、それは達成している気がするんです。

なので、今回のワークショップの目標が、基本計画のためと言っているのですが、そこよりも、そうではないところに目標があったような感じがしていて、これは一体どっちを今後やっていくのかというのは、意外に大事なポイントなのかなと思っています。

でも、はたから見ていても、私も参加していないのですが、ただ、ずっと見させていただき

ましたが、普通に楽しそうに議論していて、私も入りたいなと思うようなところもたくさんありましたし、非常にこういう取り組みってよくて、アンケートを見ても、あるいは皆さんの表情を見ても、非常に満足度が高そうというところもあったので、こういうのは本当に、どんどん取り組んでいくといいのかなと思っています。

◎日向委員長 では私からも一言。もう大体皆さんがおっしゃっていることに尽きるのですが、非常に運営としてはすばらしかったと思います。学生が運営主体に入っていて、年齢層もさまざまな人が参加していたと思います。準備するには結構いろいろ、市の方も大変だったんじゃないかなと思います。

今後のポイントは、このファシリテーターの感想の中にもあるのですが、意見の集約、洗練のさせ方とか、あとはやはり、市の人が、エネルギーを使ってやるのではなくて、持続可能な形で、無理なくやれる形というものを、今後は模索していくということになるのかなと思いました。

ただ、やり方は非常によくて、もっと、あれ、マスコミの人っていたんでしたっけ。

◎事務局 いえ、それは特には。

◎日向委員長 せっかくいい取り組みで、小金井市をアピールするいい機会なので、マスコミとかそういう人にも広く取り上げてもらって、アピールできるんじゃないかなというふうに、個人的には思いました。運営としては非常にすばらしかったと思います。お疲れさまでした。

ほかに。どなたでも結構です。

◎森田委員 開催前にヘルプの連絡が来たので、私が運営している施設のほうから職員3名派遣しました。当日中に意見をもらって、今日御報告させていただこうと思います。

3名中2名は、もうワークショップにすごくなれていて、私もいろいろなところに出しているのですが、そうなるとうやはり、渡邊先生もおっしゃっていたように、これの落としどころがどこにあるのかがちょっと明確でない。単なる交流会に終わってしまっているのではないかと。あと、ファシリテーターが小金井の大学に通っているとはいえ、住居は小金井というわけではないので、参加者が小金井のいろいろなことに詳しくても、それに一緒に話せない。もう少し小金井のいろいろな事情、お店がどこにあるとか、どんな状況だということを事前に学ぶ、あるいは学生というところだけにこだわり過ぎて、その辺がちょっと、もう少し詳しい人たちがよかったという意見がありました。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎中村委員 ちょっと、ようやく思い出してきましたので。市の職員の方は結構いろいろな、教育委員会のほうからも係長さんも出ておられましたし、結構いろいろな部署から、お休みにもかかわらず出てこられて、私が休みに駆り出されたら、何かつまらなそうな顔をして会議に出たりしそうにもかかわらず、教育委員会の女性が各グループごとに、ワークショップをやっているときに、ファシリテーターをなさっていたのですが、本当に楽しそうで、つり込まれて、私も非常に楽しい思いをして、最終的に帰ってきたような感じですので、やはりファシリテ-

ターの重要性というか、御準備もかなりされたと思うのですが、非常にそういう意味ではよかったかなと。

その辺の御準備もよかったし、総合司会の方も、お上手にされて。それから学生さんも、総合のファシリテーターをやっておられました。非常に、学生にしてはと言うと言い方が悪いのですが、お上手でした。

そういう意味で、私もそうですし、参加者の皆さんも結構、非常に楽しんで帰られたかなという感じはしました。

ですから、こういう、やはりやっていて楽しいというのは、案外単純なようで大事なところじゃないかなと思いつつ、会場を後にしたような次第です。御準備ありがとうございました。

◎日向委員長 ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 もし可能であれば、学生でかかわった方々がどんな感想、御意見を持ったかを、少し御紹介いただけると。職員ではなく、かかわったまち研の皆様。

◎事務局 本日、資料として出させていただきますファシリテーターの感想というのは、前半部分は学生さんの意見になります。

◎渡邊副委員長 職員と書いてありますが、前半は学生なんですか。

◎事務局 はい。裏面の、職員ファシリテーターからの意見抜粋というところが、これは職員でやらせていただいたものからの意見なのですが、それ以外は学生さんの意見になります。

◎渡邊副委員長 わかりました。

◎日向委員長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。またこの後、提言のたたき台の議論などもしますので、その場でも結構なので、お気づきのことがあれば御発言いただければと思います。

それでは、今いただいたような御意見なども踏まえて、提言をまとめていきたいと思つています。

続きまして資料2「提言のたたき台について」です。こちらは渡邊副委員長に作成いただきました提言のたたき台になります。これをもとに議論を進めていきたいと思つています。

なお、この提言について議論する機会がなかなか限られてきます。スケジュールについて事務局より補足をお願いいたします。

◎事務局 それでは、資料3の行程表を御覧いただきたいと思つています。

委員長からお話がありましたとおり、今回の御議論の結果を受けた案を、次回、5月ごろに開催を予定しておりますが、次回再度議論していただきまして、提言を確定していきたいと思つております。

その後、提言を踏まえ、市長意見を、8月ごろと考えておりますが、8月ごろの会でお示しをさせていただくという運びとなります。

ただし、次回5月に予定している会議については、年度当初の会議のために、審議会の状況報告等、毎年やらせていただいているものが組み込まれますので、その辺でちょっと時間がとられるということで、こちらのたたき台についての御議論の時間が少なくなってしまうという

見込みがございます。そのため、今回できる限り委員の皆さんの意見を集約できればと考えております。

◎日向委員長 ありがとうございます。

私から補足をさせていただきます。事務局としては、この2回、今日と次回の2回でまとめたいということですが、ただ、皆さんも、じっくりお読みいただけていない方も、ひよつとしたらいらっしゃるかもしれませんので、会議はある程度限られるのですが、会議のない間も、いろいろメールなどでご意見のやりとりをある程度させていただく時間をとりたいなど、私としては考えております。

そういうやりとりを経て、5月にある程度提言をまとめられればと考えております。そんな感じでよろしいですかね。

◎事務局 はい。

◎日向委員長 では、まず渡邊副委員長から資料2に沿って説明をお願いいたします。

◎渡邊副委員長 では、あくまでたたき台ですので、この文言をぜひということではなく、一から全部書きかえていただいても構わないくらいのつもりですが、何もないと議論できませんので、まずは皆さんで議論をするために作成をしております。

私個人の意見というよりは、これまで皆さんとしてきた議論を中心にしつつ、ある程度方針として提言しやすい部分をまとめたという形となります。

構成としては、「はじめに」「これまでの経緯」、そして提言の中身。「おわりに」は最後に少しつける予定ですが、まだこれはあまりしっかりはついておりません。という流れです。

「はじめに」と「これまでの経緯」は、ほぼ決まり切ったものが書かれているので、あまり本筋ではないので、こういうものかな、ぐらいのおつもりで御覧いただければと思います。

本題はこの「提言」となります。今回、第7期の推進会議では、前回の第6期のワークショップのあり方を引き継ぎつつ、より発展させていく。かつ、できればより若い方を含めて、市民参加して討議できるような状況を作り上げていこうということ、大きい提言の柱としております。その中身についてどうするかということを書いてあります。

まず初めに、ワークショップってどういうものかということの説明をした上で、具体的な、要は提言といえるのは、めくっていただいた2ページの、提言の(1)からです。ここからになります。

大きく3つぐらい書かせていただきました。1つ目は、参加しやすく議論しやすいワークショップの運営ということで、先ほどの「こが☆カフェ」などの例もそうなのですが、要は、行政がやる決まり切った会議とかに市民が参加してくださいと言っても、よっぽど関心がない限り普通は参加しないですよねという、ごく当たり前の現状認識があり、やはり、先ほど中村委員がおっしゃったように、楽しさであるとか、あるいは、どんな方でも、森田委員から先ほど御紹介があったような、どういう状況の方でも参加しやすい、あるいは楽しめる、それはすごく大事だと思うんです。逆に、ワークショップになれ過ぎた人にとってつまらなくなっても、

そこに当て過ぎると、普通の人についてはいけないワークショップになって、こういうことではだめなわけです。それならもう、プロの会議に行ってくださいというところがあるので、やはりそうすると、いろいろな人が参加しやすく、かつ、せっかく参加していただいたら、何も言わずに帰ってきましたではなく、議論ができる、そういう環境作りをどうすればいいのかということについて、中心に書いております。

やはりその場合には、テーマ設定、規模、それから参加者の確保、雰囲気、そういったいろいろな側面が重要だろうと。テーマ設定とは、専門的過ぎたり抽象的過ぎると厳しいですよということ、このあたりはごく基本的な対応です。それから規模。このあたりは前回の提言でもありましたが、その辺も踏まえつつ書いております。

それから、ワークショップの開催時間。2時間とかそういう時間ってどうしても限られてしまうのですが、それを、中長期的には前後、前よりは後ですね、後の交流機会等もふやしていけるようなあり方というのも大事だろうと。

さらに、多様な参加者の確保については、いろいろな方々が参加できるということがとても重要だし、そのために幾つかの方策がある。特に今回の場合、若年層を中心としていますので、若年層によりウエートをかけて呼びかけていくといったことも考えていいのではないかと。

また、ここら辺も推進会議の委員会で議論がありましたが、地域の教育機関とか市民団体、あと地域の何らかの、子供会とかそういう集団というか、そういったものにも呼びかけていくということもあっていいし、ここら辺は、1個の方策というよりは複数を組み合わせるべきだということを書いております。

ただ、ほかにも、この辺はもう少し、まだ文章化せずに、アイデア段階として書いているものとして、仕掛けやノウハウ、楽しさをどう演出するか。それから服装とかそういったもの、いろいろなことが恐らく重要なのだろうということもあります。

また、これは恐らく「こが☆カフェ」よりも前に、中村委員等からもご指摘がありましたが、あの場所、今回は参加者が思ったより恐らく少なかったから、比較的とてもよい雰囲気だったのですが、本当にあの大きさでよかったのか。あるいは逆に、もっと小さくして、そのかわり密度を濃くするという手もあるのですが、そういうのをどうするのかとか、そういうのも考えていくと。この辺はもう少し皆さんと議論できて、いろいろなアイデアをいただければ思っております。

まずこのように、運営ノウハウについて、よりしっかりと、こういうことはちゃんと注意してくださいねというのを各部分がここです。

次に広報です。どれだけいい運営をしても、ちゃんとした広報をしないと誰も来ないという落ちが待っていますので、ちゃんと広報をしていきたいと思いますというところがあります。

1個目のところに関しては、ごく一般的なことが書いてあります。ただ、これを書いてもなかなかうまくいかないことが容易に想像がつかますので、例えば前回とかに、いろいろ皆さんから御議論をいただいた中で、やはり何のためにやったのかというのをちゃんとフィードバック

クして、やったことを、また参加しようと思う気にしましょう。それも同時に広報になるんです。ということはちゃんと考えていきましょうということです。

まずデザイン性をちゃんと意識していきましょうといったものがあります。実はこの「こが☆カフェ」、ホームページがあつて、映像とかも実はあるんです。ただ、その辺はやや微妙な映像で、一言で言うとゆっくりなんです。僕はもう、自分もそんなに若くないので、ユーチューバーとかってわからないんですが、ああいうのってものすごくテンポが速い。それは若者にとって多分じっくりくるテンポの映像と、そうじゃない人にとってじっくりくるテンポの映像はちょっと違うので、そのあたりは恐らく使い分けたりしながらやっていくといいのかなと思います。

ちなみに、これはどちらかというと小金井市には、一遍ここから離れて苦言ですが、WMVというウィンドウズのごく一部でしか見られないものでしかなく、このスマホからもiPadからも見られずに。いろいろな人が見られるようなものを上げるといいなというのが正直なところですが。ただ、それでも、こういったものに映像を報告書として上げるというのはすごく斬新で、それをチャレンジしたことはすごく評価できるんです。そういうのはぜひ、どんどんやっていくといいかなと思っています。

それから、即時性がある広告手法等があつてもいいかもしれないですし、あるいは参加者へのアフターフォローというのもとても重要なかなと思っています。

このあたりは、やはり参加したことに意義があるというのを、先ほど森田委員から、落としどころとありましたが、例えば、こんなところでこんなふうになりました、というのをアフターフォローしていくのもいいかもしれません。荒城委員がおっしゃったような、ポスターとかで、こういうことが解決しましたというのを出すこともいいかもしれない。いろいろな方法が多分あるので、そのあたりを、実は広報に組み込んでしまうというのも考えてもいいのかなと思っています。

3つ目が、外部団体との協働です。ワークショップの話をしていくと、なかなか、市の職員の負担とか、あるいは恐れとかですね、先ほどお話がありました。そういうのも多分あると思うし、それはそうだろうなと正直思うわけです。そのことをあまり無視して、我々はどういうことをやったほうがいいですよと言っても、それはなかなか乗り気になっていただけないので、そういうときにこそ、外部の団体等の力を使っていったほうが絶対にいいと思っています。

外部団体はノウハウもありますし、多分、市と感覚が全然違うと思うんです。それをうまく組み入れながらやっていったほうがいいだろうということで、この外部団体との協働を書いております。

もちろん、本当は市の職員に能力を持っていただけるのがベストです。個人的にはむしろワークショップって、市の職員の学習機会としてもすごく重要だというのは、これは前回の委員会からかねがね僕は言っているのですが、ただ、それだけを言うだけだとなかなか動かないので、外部団体との協働というのはとてもいいです。今回の学生というのも、非常にいいものだ

ったと思いますし、もう一個前のときにやった公共施設等の総合管理計画のときは、あれはどちらかというもっとがちっとやるタイプの議論だった、つまり、何かを決めていくみたいな感じですので、それはそういうノウハウを持った人々とか、そういうふうには外部団体でもノウハウは違うので、そういう、いろいろなノウハウをどんどん取り入れて経験して、それを市に蓄積していくことが重要かなと思っています。

また、2番目のポチで意義を書いています、質の高い運営ノウハウ、今言ったようなことだけではなく、市の職員の不安感、負担感の軽減、さらに、飲食の話が結構出てきましたが、どうも市がやるとそれはできない。でも、まるっと委託すると意外とできたりするというのもありますので、そういう、裏技と言っではいけないのですが、やり方はいろいろなノウハウが恐らくあるということを考えていけるだろうということがあります。

ただ、これもやはりもろ刃の剣なところがあります。それが3番目で、運営全体を外部委託すると、恐らく市職員の経験や成長の機会を失うことにもなりかねないので、これはやはり協働でやらなければいけない。つまり、お任せしては意味がないだろうという点は注意したほうがいいと思っています。

むしろ、こういうのは、ワークショップの運営っていろいろなノウハウといろいろな方法があって、テーマごと、目的ごとで多分違ってきます。そうすると、それを全部いきなりというのは大変なので、いろいろな経験をしていって、能力を市のほうにためていくということ考えたほうがいいということがあります。

個人的には、学生団体のワークショップって、今回、自分は大学の教員の立場からという色眼鏡があるかもしれませんが、本当によかったかなと思っています、やはり若者の市民参加というのを考えていく上でも、これは非常に重要だと思っています。

かつ、学生団体で、小金井市に住んでいない方がほとんどというのも、それは多分どこの自治体もそうだと思うんです。でも、こういうのを積み重ねると、何かのときに、あれはおもしろかったし、という、学生にとって選択肢になってくれば、これはもう、10年後20年後、そういう選択肢になればいい話なので、こういうのをいろいろ積み重ねていくことというのは、絶対に意味があるかなと思っています。そういうことも書いております。ただ、このあたりも、恐らくいろいろなことがあります。

今の段階で書いてあるのはここまでとなります。今後、ぜひいろいろな御意見をいただければと思っています。

また、それとは別で、もう少し市にハードルを上げてもいいんじゃないかなというのも少し考えておまして、計画後は、原則としてぐらいですが、ワークショップを1回ぐらいはやっていきましょうとか、全部の計画でなくてもいいと思いますが、何かやはり、市民参加を推進する、ワークショップをやる回数を、行政側にももう少し、やっていきましょうと。ただやりましょうねではなく、これくらいやりましょうというのは、どこかでやれるといいかなというものもあります。ただ、このあたりはまだ議論していないので、まず皆さんとしっかり議論をし

た上でやっていくのがいいかなと。もちろん、あと市側の御意見もあるでしょうし。そういうのを含めて、ぜひいろいろなことを考えられればと思います。

以上が説明となりますが、あくまでたたき台ですので、どんどんと練っていただければと思います。よろしくお願いします。

◎日向委員長 ありがとうございます。

今、渡邊副委員長から説明をいただきましたが、あくまでもこれは、まとめるに当たってのたたき台ですので、皆さん方から御自由に御意見をいただければと思います。何かこんなことを自分は言ったけれども、ちょっと入っていないとか、そのような意見。

もし、十分に読んで、今日参加されていない方も、例えばちょっとそれる意見でも結構ですので、遠慮なく、ぜひ積極的に御発言をいただければと思います。

どなたからでも結構です。いかがでしょうか。

◎森田委員 この間のワークショップに関してなのですが、ファシリテーターをする学生さんたちとは準備を何回か重ねられている。

◎事務局 そうですね。何回か打ち合わせもさせていただいて、当日は職員も一部ファシリテーターとして入ることがありましたので、当日の流れを一通りやるような、リハーサルとしてのワークショップなどもやりまして、できる限り準備のほうを丁寧にやろうということを進めました。

◎森田委員 先ほどお伝えした3人のうち、なれている2人は、3人とも20代前半なのですが、2人はやはり、もっと準備も、当日ぼんと行くよりも、もっと準備のところからかかわっていたかったなというようなことも言っていました。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 今の森田委員の意見はとても重要だと思っていて、参加者へのアフターフォローの重要性のところにさらっと書いているのですが、特に、若くてそういうのが好きな方が参加して、でも、もっとやりたかったなという若干の物足りなさって、一番おいしいタイミングだと思うんです。その方々に、じゃあ今度はファシリテーター養成講座がありますとか、さらに、そういった市民のファシリテーター養成講座に参加した人に、その次のワークショップでファシリテーションをやってください、みたいな流れができていくと、成長できるものもありますし、もちろん、ファシリテーションとかはやりたくなくて、ただ参加したいということは、ただ参加していけばいい話なので、それは、せっかくすごいいい、むしろちょっと不満というぐらいが、多分ある意味一番いいところなので。完全に満足しちゃうと終わっちゃうので、ちょっとぐらい不満というのを、うまく次につなげられるというのは、ぜひ、入れていけるといいと思います。アフターフォローというのは、むしろそういう意味が入っていますので。

◎森田委員 多分、その3人に対しては、その後に私から聞くという、それがアフターフォローになっていたと思うんです。彼女たちはそれを伝える、ほとんど伝えるということ、それは満足して、今日、私が、じゃあ伝えるからねということにつながっている。

じゃあ、ほかの人たちはそれはどうだったのかなということも、やはり気にかかるので、次へとつながって、そこで興味があった人は、その当日参加のときに、もう捕まえておいて、今度のとき、そういうふうにしてねということをしていくといいんだろうなど。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎中村委員 ちょっと本質、内容の議論とはそれるのですが、用語の解釈、あるいは言い回し、理解というところで、もちろん、この渡邊副委員長が作っていただいたものはたたき台ですから、何ら、たたき台のレベルでは全く問題ないと思うのですが、例えば用語で、「ワークショップ」というそのものの言葉であったり、あるいは「ノウハウ」という言葉であったり、あるいは「ファシリテーション」「インタラクティブ」、これは、我々委員の皆さんは日常もう使っておられるからわかっていると思うんです。その土台で話はしていますが、提言という形になると、市のいろいろな人の目に触れるということで、その辺を意識しつつ、例えば「ワークショップ」というのはどういうものであるという注釈を入れておいたりとか、あるいは「インタラクティブ」というのはどういう内容の言葉であるとか、注釈ですね、そういうのをつけていったほうが、より、市民に対して親切だろうと。「ファシリテーション」もそうですし。そういったところも配慮する必要があるかなと。あるいは「ノウハウ」というのも、お年寄りとか、あるいは小学生とかがこの提言を読むかどうかは別として、そういったところにも配慮しながら、我々だけの読む内容でなしに、ちょっと視点を変えて、こういった提言は作成する必要があるのではないかというのが1つです。その辺をかみ砕いた平易な言葉で、わかりやすい提言をしていく必要があるのではないかというのがまず1つです。

あと、あくまでも提言でありますので、先ほど渡邊副委員長がおっしゃったように、例えばワークショップを、この審議会であったり、あるいはあるテーマにおいて最低1回はやるという、そういう数値目標といったものも、提言の中では盛り込んでいったほうが、これはあくまで提言ですから、それを採用していただくかどうかは別問題として、最低1回は、シリーズのあるイベントにおいてやるとか、そういった数値目標は必要だろうと。これが2点目です。

3点目は、ワークショップというのは、やはり1回限りに終わらせずに、シリーズというか、関連性を持ってやるべきではないかなと思います。ワークショップも、1回限りに終わらせないようにということで、先ほど渡邊副委員長もおっしゃいましたが、ある意味、ワークショップに参加してくれる市民というのは、いい人材というか、言い方は悪いのですが一つの人材だと思いますので、そういった核となる人材はやはり確保してというか、また来ていただくときに、ファシリテーターになってくれるかもしれないし、そういう意味で人材確保の1つのきっかけでもあると思いますので、そういった観点から、1回限りで終わらせずに、そういった人に何回でもリピートしてもらえるように、参加者がリピートしつつ、市のほうでもやはり、ワークショップを関連性を持ってやっていく仕掛けというのが必要ではないかなというふうに、1回限りではなく。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎岡田委員 ちょっとお伺いしたいのですが、先ほど中村委員がおっしゃっていたとおり、ちょっと難しい言葉というか、わかりやすい言葉にかみ砕いてというお話があったのですが、私は40代なのですが、正直、わからない言葉がありました。

たまたま採用の仕事をしているので、身近な言葉があったのですが、私たちの年代で、例えば役員ひとつするにも、パソコンができないからやりたくないという人が大半だったり、意外と皆さんが身近とと思っていることができない方のほうが多いとか、知らないことが、実は主婦とかは多いんです。

今この、例えば「ワークショップ」であるとか「ファシリテーション」であるとか、そういう言葉は、大学生さんたちにとっては普通のことなんですか。教えてください。すみません。

◎渡邊副委員長 私が代表して答えていいですか。多分、「ワークショップ」に関してはいけるとおもいます。全く問題がない。「ファシリテーション」って、これはすごく難しく、つまり、日本語に訳せないからこの言葉を使わざるを得ない言葉だと思うんです。要は、「議論をまとめる」ではないんです。つまりまとめ役ではないし、司会でもないんです。議論を誘発し、方向づけ、あるいは、時には議論が脇道に完全にそれ切るときには戻してあげるとか、そういうふうに議論をアレンジしていくのが仕事なんです。

◎岡田委員 道案内役とか。

◎渡邊副委員長 なので、この「ファシリテーション」は説明はできるんです、いろいろな形を尽くして。じゃあこの「ファシリテーション」以外の言葉で言いかえたほうがいいのかと言われると、これは結構、あえてこの言葉を使ったほうが良いというタイプの言葉です。

「ワークショップ」は別に、何でしょうね、「議論の場」とか言えばいいのですが、これはどちらかというと、比較的好く言われる言葉なので使っています。

「ノウハウ」に関しては、これもちょっと難しいな。知見とか知識とかと言ってもいいのですが、これはでも、一般的な用語かな。「インタラクティブ」は、箇条書きで書いてあるということであるように、これはメモなので、全然使う気はないので。これはまあ、ちょっと英語がわかる人は使えるのですが、一般的な言葉では恐らくないです。「相互にやりとりをする」という意味です。

だから確かに、ささっと作ってしまったので、少し言葉が難しいので、もっともっと皆さんの御意見をどんどんいただいて、わかりやすくするのは今から大事なかなと思います。なのでぜひ、御意見を。

というわけで、学生がわかるかと言われると、多分わかってくれると僕は信じたい。(笑)

◎日向委員長 ありがとうございます。

確かに御指摘いただいたとおり、誰が見てもわかりやすく書くというのは、一番大事なことかなと思います。私もこの手の文章を書いたことがあるのですが、例えばそのときには片仮名言葉はできるだけ使わないなど、渡邊先生に直していただく中で、皆さんにも見ていただければと思うのですが、基本的な考え方としては、書き下せるものは書き下して、書き下せないも

のについては、どういう意味なのかというものをどこかに、下に注釈をつけるとかいうのは基本かなと思いつつ伺っていました。

ありがとうございます。ほかにお気づきの点があればお願いいたします。

◎森田委員 そうなると、ここの「無作為抽出」とかそういうのがわからなかったりとか。逆の現象が。（笑）

◎渡邊副委員長 「無作為抽出」ですか。私、社会調査の授業を教えています。これはどちらかというと学生に、説明をテストで出すものを。（笑）

◎日向委員長 難しいですね。まあ、書き下したほうが、多くの方はわかると思うのですが、書き下すことによって、伝えたいことが伝わらなくなるということもあるので、そこは、皆さんの御意見をいただいた上で、修正したものをもう一度見ていただいて、皆さんの感覚でどうなのかというのを、御意見をいただく中で決めていきたいかなと思います。

ほかにかがでしょうか。

◎岡田委員 テーマに関してなのですが、これは今、例えば興味を持ちやすいテーマというのを、これからみんなで考えていくということですよ。

◎渡邊副委員長 これはあくまで市への提言となりますので、市が行う際には、かたいテーマではなくちゃんとやっってくださいね、というのがあります。

ただし、提言の中に、例えばこういうテーマでやったらどうですかということ盛り込むこともできます。つまり、我々としては、ぜひこういうテーマもやってほしいと思っていますということ盛り込むことはできますので、例えば何か、もっと具体的な、こういうテーマとか、提案があれば、それを書くことはできます。

◎岡田委員 ちなみに、参加しやすく興味を持ちやすいテーマというのは、例えばどういうものがあるでしょうか。

◎渡邊副委員長 1つは、まず、小金井市の未来を考えましょうとか、小金井市の子育てを考えましょうとか、比較的わかりやすいものですね。

もう1つ、実は参加しやすく興味を持ちやすいのは、論争的なテーマです。例えば、ごみ焼却場を造るか造らないかみたいな。これはある意味リアルで、かつすぐわかりやすいので、参加しやすいです。利害関係も、要るけれどうちの隣だけは嫌だ、みたいなものもあれば、絶対反対もあれば、いろいろなものがあります。恐らくこの2つというのが一番わかりやすいパターンです。

ただ、当然ながら、もし数値目標みたいなことを考えると、そういうわかりやすいテーマだけではなくていくので、それでも、少しでもわかりやすくするというのは、ちょっとやはり考えていかなければいけないところです。例えば介護保険の計画みたいなときに、そういうことはちょっと違いますよね。そういうときでも皆さんに興味を持ってもらうためにはどうするかとかは、ちょっと考えなければいけないと思います。

というのが私から。要は、論争的か、比較的漠然と、でも将来的な、みたいなテーマがやり

やすいテーマかなと思います。

◎岡田委員 ありがとうございます。

◎日向委員長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

◎森田委員 進め方によっては、ワークショップのみでなくて、最初に前段に、何かちょっと講義的なものがあるって、参加者に共通の理解を持ってもらって、じゃあ、今の渡邊先生の講義についてどう思うかということ各テーブルのワークショップでもんで、またそこに先生にフィードバックしていくというふうなやり方も。

◎渡邊副委員長 たしか、前々回がそれでしたよね。公共施設の。

◎事務局 そうですね。

◎渡邊副委員長 あれはたしか、公共施設とその管理計画で、かなり厄介な計画なので、財政も絡みますし、建物の質とか、安く造るか、しっかりいいものをお金をかけてでも造るのか。お金をかけてしまうと少なくしか造れないとか、そういういろいろなことがかかわるんですよという話を講義してもらって、その講義を踏まえて、じゃあ議論しましょうみたいな形でした。それもすごくいいやり方の1つだと思います。

◎日向委員長 例えば、このテーマの設定というのは、何か例示を出すとそれにとられるような気もするし、なかなか難しいところではあると思いますけれど、もし何か、この後でも結構なので、ここの書き方について御意見があれば。

いろいろ御意見をいただきましたありがとうございます。あまり私が意見を言うのはどうかとは思いつつも、個人的には、やはり先ほど中村委員からも御指摘がありましたが、市民参加を進めるといのは、市のいろいろな意思決定過程の中に、どうやって市民が参加するかということだと、学ばせていただいたのですが、そう考えると、ある程度チャレンジングなことになるかもしれませんが、できる限り、市がいろいろな政策を決定する、いろいろな行政分野があると思うのですが、その中で、こういうワークショップの手法というものをとり入れることを考えてほしいというのは、一つ、方向としてあるのかなと、個人的には思いました。そのあたりもまた、御意見をいただければと思います。

あともう1つ、フィードバックって、これ、どういうことでしたっけ。

◎渡邊副委員長 フィードバックは幾つかあります。例えばこういう結果で、じゃあこの、小金井市だと、例えばブランディングをみんなですていかなければいけないみたいなことが、かなり盛り上がって議論になったときに、じゃあ、次にどういうことをやるのか。もちろん、いきなりアイデアがそのまま使われるということはないにしても、じゃあブランディングのことを考えるための会議体が始まりました、みたいなことを皆さんに提案してもいいですし、あるいは、今後そういうことを検討するということが会議で紹介されていますということでもいいですし、何か、自分たちがやったことが言ってくれるというのは1つあると思います。

ただ、これはもちろん、比較的わかりやすいフィードバックで、もう1つは、じゃあこういうことが今議論されていますよという知見を、新しく提供をもらうというのものもあるかもしれま

せん。いろいろとフィードバックはありますので、私としては、何か、せつかく言ったものが何にもならなかった、ではなくて、何か返ってくる。「採用されました」がもちろんベストですが、なかなかそうはいかなくても、議論されていますとか、こんな議論が海外ではやられているらしいですとか、別に国内でもいいですが、そういう情報が来るとか、そういう、ちょっと自分が議論したことが発展した感じだったり、使われているという感覚を持てるだけでも、大分変わってくるのかなというのが思いです。

◎日向委員長 渡邊副委員長から御説明いただきましたが、フィードバックについて、考えていくのかとか、それから、どなたかの御意見で、引き続きかかわれるような仕組み作りという御意見がありました。

それは、ワークショップにさらにかかわるということだけでなく、多分、こういう委員会に、参加しようと思ってもらえて、こういう委員会に参加するとか、あと、市で今、既存のいろいろな仕組みの中で、市民が参加する仕組みがあると思うのですが、そういったところにどうやってつなげていくのかとか、そのあたりを、我々としては市のほうに提言させていただくことによって、市の政策に生かしていただければと、個人的には考えているところであります。

とりあえず、1時間経とうとしておりますので、ここで休憩を入れさせていただきたいと思えます。開始は8時5分とさせていただきますと思えます。

それでは休憩にいたします。

(休 憩)

◎日向委員長 それでは再開いたします。引き続きまして、今期の提言に向けてということで、資料2に基づいて、このたたき台について、皆さんから御意見をいただければと思えます。

どなたからでも結構です。いかがでしょうか。

◎鹿子木委員 渡邊副委員長からの提案のところ、一般的にするという、市民参加が小金井では普通なんだよというのを目標にしている提言ということなので、例えば、僕はもう少し市の方に、負担にはなっちゃうのかもしれないんですけど、もう少しハードルがあってもいいのかなとは思っています。例えば、市の方でもワークショップに参加したことがないという方も、絶対たくさん、ほとんどがそういう方ばかりだと思っています。なので、まずは市の方の意識を改革しないと、市民のほうに言えないと思っています。じゃああなたたちは参加しているんですかといったら参加していません、では来てくれないと思えます。

なので、まず市の職員の方も参加しているとか、そういう裏づけがないと、なかなか参加していただくのは難しいのかなと思うので、例えば市の中でファシリテーション向上部とか、何かそういうのがあって、例えばファシリテーション能力が向上して、私は1年間でこういうことができるようになりましたとか、そういう具体的なものがあってもいいのかなとは思っています。そういうのも何か提言に入れるのもあれなのかなと、僕は思いました。

もう1つあるのが、ワークショップってすごいハードルが、やはりどうしても高いとは思っています。参加するのって。ただ、一回参加すると、楽しかった人は来るし、ちょっと向かなか

った人は来ないのかもしれないですが、その、一回来るというところをどうにか、ここの場で、どうやったら来てもらえるかというのをもう少しこの提言書に書ければなと思うんです。

それが多分、SNSだけだと難しいのかなと思って。とにかくやはり、この青年会議所で人を集めるときとかは、SNSではなかなか来ないですよ。ホームページの更新とか、青年会議所ではやっているのですが、それを見て来ましたというのはあまりいなくて、どちらかというと直接声をかけて、チラシを渡して、こういうのがあるんですけど、というほうが多いので、やはり、もし広報戦略についてということだったら、どちらかというとそういった、地道なほうが来るんじゃないかなと、口コミとか、思いました。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎村田委員 先ほどの鹿子木委員からのお話にちょっと近い話なのですが、最初に、今まで関心を持っていなかった市民を巻き込むというのと、一回参加してもらって、継続して来てもらう難しさというのは理解していて、今回まとめていただいた資料の中で、広報戦略についての中で、一気にまとめて書かれているのですが、ここは分けて、もう少し深掘りした形で提言にまとめられるといいんじゃないかなというのが私の意見です。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

事務局に確認ですが、今回の「こが☆カフェ」はどうやって参加者には声をかけたのでしょうか。

◎事務局 まず最初は、2,000人に対するアンケート調査というのをやらせていただいて、その中に、こういったイベントをやるときに参加してもいいという人がいましたら連絡先を教えてください、申し出てくださいというようなことで募りまして、最初はその方たちに、この12月のワークショップのお知らせをさせていただきました。

ただ、それだけだと、やってみたいと言ってくれていた方なのですが、当日は都合が合わないとか、そういう方も当然いらっしゃいますので、想定していた人数が集まらず、その次は公募をかけさせていただきました。広くホームページとかそういうもので市民に募らせていただいたのですが、それでも集まらず、最後は、先ほど森田委員からお話がありましたが、もう直接お願いする形ということで、それで当日44名の参加がいただけたと、そんな形になっています。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

今、鹿子木委員と村田委員から御指摘いただいた点も非常に大事な点だと思いますので、このあたりも含め、ほかの委員の方でもお気づきの点とか、こんなアイデアがあるというのであれば、今日でも結構ですし、この後でも結構ですので、御意見をいただければと思います。

◎渡邊副委員長 むしろ、事務局ないしは両部長に御質問なのですが、これはあくまで感覚の意味ですが、市が主催でなくてもいいので、教育機関とかそういったことも含めて、市の職員のワークショップの参加経験ってどれぐらいなんですか。先ほど鹿子木委員がおっしゃったように、全然なければ、知らないものをやれと言われても難しい。あるいは、それは人事とか教

育体系とかに、どこかで少しでも入っているのかとか。

◎加藤委員 ワークショップにどのぐらいというのは、正直、把握はできていないと思います。いわゆる職員の研修の体系でいうと、独自の研修と、あと、各課でいろいろな研修をやっていて、その中にもしかしたらワークショップ式の研修に参加しているというのがちょっとあるかもしれないのですが、ただ、市の集合研修とか、あと市町村職員の研修所の研修という中でも、ワークショップという形態よりもむしろ、いわゆるグループ討議とか、そういうのは一般的に広く取り入れられているので。ただ、それは市の職員同士、もしくは他市の職員同士というのはかなりあるのですが、こういうワークショップでやるとなると、かなり長期間にわたる政策、ちょっと名前は忘れてしまったのですが、政策形成研修みたいなもので、例えば何カ月かにわたっての研修があるのですが、そういう中では、ワークショップ形式のものをとり入れながらという研修は、多分あると思います。

ただ、そこに参加している人数ということでは、かなり少ないとは思いますが。何十、何百という。下手するとそこまで行かないかもという。ただ、市の職員としても、今はかなり外部への研修というのになるべく出すようにはしていますので、そういう中では、経験はしている職員は当然いるとは思いますが、それを集合研修の中に必ず入れているかということ、その数はまだ多分少ないと思います。

すみません、ちょっとざっくりですけど、そんな感じです。

◎天野委員 うちの職員のワークショップの参加ということなのですが、何人か、特定の職員が参加しているのかなという感じがします。

それから、庁内で、それがワークショップと言えるかどうかかわからないのですが、職員同士でグループ討議をして発表していくというやり方はよくやります。例えば今、新庁舎建設ということで、庁内の若手の職員の意見を聞いていくということで、いきなり集めて、そういうワークショップ形式のものをやるんです。そうすると、結構今の若い職員って、慣れているせいか、うまくやるんですね。本当に議論して、手際よくぺたぺた張って、発表までうまくできちゃうみたいな。うちの職員すごいな、なんて思いつつも、まあ、慣れという部分もあるんでしょう。

ただ、本当のワークショップというのは、今回うちの職員がやってくれたような、市民の参加をファシリテートしていくというところが醍醐味であったりするわけで、そういったところの経験というのはまだまだ少ないかなと思っています。

ただ、前回の第6期の提言をいただいたときと比べたら、庁内でもかなりワークショップは増えてきています。先ほど副委員長がおっしゃっていただいた公共施設の管理計画のものから、新庁舎建設、また公園の計画・方針などというときにもワークショップ形式がとられたりだとか、この間、別の審議会なのですが、審議会の中でワークショップ形式で自由に議論してやるみたいなこともやってみました。ちょうど企画のほうに異動してきた職員が、前の職場が市民協働を担当していた職員で、今回、イトーヨーカ堂さんと協働でやってくれたりとか、そうい

う経験を積んできているという意味においては、前回のときよりは、庁内的にもワークショップへの経験というのは、少し高まっているかなという思いはあります。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎森田委員 先ほど齋藤さんが、そんな怖くなかったとおっしゃったのは、すごく私、よく気持ちが悪くて。ワークショップという形式よりは、そこで市民と混ざったときに、一方的に何か意見が集中してしまうんじゃないかという怖さは本当にあると思うんです。

なので、ワークショップというのは一方的に何か反論したりとか、そういうものではありませんということ、このときに、まずみんなの共通の理解をしておくということが、それは市民も求められるべきもので、そこを気をつけながらワークショップを行っていくというのがすごく重要です、行政の職員も市民も一緒に協働していくということには、そこは守っていかなければいけないルールかなと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

◎天野委員 続けてすみません。いろいろやった中で、反省というか課題というふうに自分が感じているのは、こうやってワークショップをやった、その成果をどう反映していくかというのがすごく難しく、この間の公共施設のときにも、この審議会でも御指摘があったのですが、言ったものがどこに反映されたのかわからないと言われていたのが、ちょっと、私も気になっていて、新庁舎の建設のワークショップをやったときに、たくさん意見をいただきまして、それをどう、今後の庁舎建設に生かしていくのかというのは意識しながら仕事はしていますが、そういうのを成果として反映していくというのが、やはり市民参加として重要な部分なので、そこが一つの課題だと思っています。

それから、先ほどの議論にもあったのですが、流れ、サイクル。だから、ワークショップを開いて、体験型の市民参加だから満足感はあるのだけれど、それで終わらせてしまうと次につながらない。だから、仕組み作りというところ、一歩先のお話もいただきました。人材確保というようなこともいただいたのですが、参加して満足したところの中で、例えば何か、次にも参加していいようなファンクラブに登録してくれたりとか、またそれにつながっていくような仕組み作り。

実際、今回やったときにも、無作為抽出で参加してくれる人はいますかとやってもなかなか出てこないという中で、来てくれた人をどうつないでいくか、市民参加のサイクルを作っていくのかというのが、やはりこれからの、また一つの課題かなと思います。

あと、ワークショップを最近使っているのですが、計画だとか方針だとかを作るときに、どういうテーマのときにこういう市民参加の手法がいいのかというところが、やはりあるのかなという気もするんです。先ほど副委員長から、ハードルをつけてワークショップをやるような形にしたらどうかという話をいただいたのですが、手法として、いい手法ではあるのだけれど、どういうときに効果的にワークショップが使えるのかというような部分も、ひよっとしたらあるのかなと思います。

今後、市としてもワークショップを使っていくと思いますし、来年度は第5次基本構想という最上位計画を作っていく中で、市民参加というのは重要なテーマであります。そういったこともあって、若者の市民参加とかいうことで、ここの審議会もお願いしたというところもあるので、皆さんの御意見や経験の蓄積を、そういったところに生かせるような形で取り組んでいければと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎岡田委員 テーマに関してですが、市の方にお伺いしたいのですが、例えばワークショップを用いて、こういうことが実現したとか、実現したいとかいうテーマというのは、今までにあったんですか。

例えば、すごく極論というか、すごく難しいテーマになるのですが、簡単な考えで言ってしまうと、例えば同性婚がありかなしかみたいなテーマを持ってきたときに、私はわからないのですが、渋谷区ではオーケーですよ。あのときは、市民の中でワークショップか何かをやった結果そうなったのか、それとも、職員だけの中で決めたのかとか、例えばそういうワークショップでの議題も参考にしてこういうふうに決めました、みたいなことって、かつてあったのかなと思ひまして、質問させていただきます。

◎天野委員 ワークショップと言えるかどうかわからないのですが、貫井北町地域センターを市民参加で設計に取り組んでいたんです。そのときに、模型を使ったりとかいうところで、委員さんとああでもないこうでもないという意見をやりながら、施設の配置だとか使い勝手だとかいうところをしたりだとか、それが恐らく設計だとか、今の北町センターに反映されているとは思っています。

あとは、そうですね、また思いついたら言います。

◎岡田委員 わかりました。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。

どなたに聞いたらいいかわからないのですが、政策に反映するというのは多分理想形だと思うのですが、反映しないとモチベーションが下がるものなののでしょうか。渡邊副委員長に伺ってもいいですか。

◎渡邊副委員長 私個人は、前回のワークショップの目的がどこにあるかがわからないというふうに、先ほどお話したように、政策に反映することを目的にしているのか、そうじゃなくても全然あっていいと思っています。

もちろん、みんながどういう考えをしているかという学習をしていくというのも大事ですし、もう少し政策決定、意思決定の大きいプロセスで考えると、実際に市民がどういう問題に関心があるのかということを経験として知っていくというのも、多分意思決定プロセスの中でのすごく重要だと思っています。それを単なるパブコメとかそういう形ではなく、いろいろ話し合いをやっていく中で、こんなふうになるのかということや、ここのところまでは理解してくれるんだなというのを肌感覚として知っていくというのはすごく重要なので、それを、

策定委員の人でもいいですし、市職員でもいいですし、あるいは議員の方でもいいのですが、そういう方々がそれを見て経験していく。その場に市民も一緒にいてやるというのはとても重要だと思っています。

その意味で、ワークショップというのは別に政策の中身を確定するためのものとは限らないということが大事です。とはいえ、「基本計画の構想のために」と銘打たれてしまうと、それでどうなったの、というふうに気になるのは、もう人として当然だと思いますので。それが言われているのに、そこは何の反映もしませんとなったら、「うん？」となっちゃいますよね。

だから、そこは打ち出し方もありますし、計画のためになれば、やはり計画に何がというのは知りたくなるというのもあると思っています。

なので、ワークショップの目的をどこに設定するかというのは、恐らくそのワークショップごとに違っていいと思うのですが、ただ、さすがに一番大きく立てたお題目があれば、そこにはちょっと、どうなったかというのを一言はせめて欲しいというのがあります。

ただ、もっと大きいのは、ワークショップというものによって、日向委員長がおっしゃったような、政策の意思決定プロセス全体にそういう要素が入っていくことによって、皆さんの感覚とかが共有されていくことのほうが重要なのかなというのが、私の個人的な意見です。

◎日向委員長 ありがとうございます。私個人も、どう表現したらいいかわからないのですが、言ったことが政策になるというのは確かに目に見えていいのかもしれないのですが、そこを意識してしまうと、市民も市の職員の方も息苦しくなるような気もしてしまっています。計画を作るときのワークショップというのもあるような気もするのですが、反映する前段階で、例えば計画であれば計画の前段階で市民から広く意見を聞いて、構想をだんだん固めていくというやり方というのであれば、そういう参加の仕方というのものもあるのかなと。

ただ、そこで参加をするときに、市民の人にとってはどういうモチベーションが働くのかというのがわからない部分もあるのですが、いろいろなケースがあるんじゃないかなと思って、皆さんのお話を伺わせていただきました。

すみません、ほかの方も御意見を。この件でも結構ですし、ほかの意見でも。

◎森田委員 私も伺っていたのですが、青年会議所と小金井市ボランティアセンターと行政の方も消防も市民、議員もまじえて、防災、これはもうどういう肩書やどういう立場にも共通の問題なので、こういうときってワークショップを使うのは一番有効的なんです。

さらに、そこにろうあ者の会の方々も参加した。となると、それぞれのテーブルごとに100ぐらい、もう予想以上の参加者があったのですが、それぞれいろいろな肩書や立場の方々に入ってもらって、その前に消防、行政、うちも相方が報告したのですが、それぞれの防災、今ある立場で防災についての準備をどうしていくのかということ報告してから、それを受けてワークショップを行っていくということをしました。

それはもう本当に、きょうのこれをさらにつなげていきましょう、まずはみんなが目に見えて、実際何かあったときに、あの人大丈夫かなということをもと頭に浮かべられるような関係

性を作りましょうということを目的にやりました。

◎天野委員 最初の取り組みとして使うんですか。

◎森田委員 そうそう。

◎加藤委員 先ほど、委員長から政策というお話もあったのですが、政策と言ってしまおうとすぐかた苦しくて、政策って結局地域課題をどう解決していくかということなので、そうするとまず、地域課題って何というのが、意外とこれ、実は、職員もそうなのですが市民も、地域課題の共有ってできているようでできていなくて、その話を出してみると、今の防災の話ではないですが、なるほど、今うちの地域ってこういう課題があるんだと、話をすると出てきて、じゃあ、それって解決する術ってどんなものが考えられるんだろうという、多分そういう展開に行くと、自分の知らなかった地域課題って何か難しい言葉だけど、行ってみるとこんな身近なもので、実は自分たちでもこんなことができ、何だ、市とか行政ではこういう仕組みがあったんだ、というところから、まさに政策としての地域課題を解決するためのすべというものがだんだん見えてくるというのがあるので、そういう形で、いわゆるワークショップがそういう段階を経ていくというのは、意外と、ワークショップという難しい意見を言わなきゃいけないとか、専門的そうな人がいると、ああいうことを言わないとまずいのかなとか、というのが、今の入り口のところで、地域課題って何だろうという共通認識ができると、意外と流れていくというのは、自分が過去にほかの市のに参加したときに、なるほど、こういうふうに行くと、結構みんな溶け込めるんだなというのが、自分の経験で一回あったので、進め方としてうまく、今みたいな形で行くと、あそこはそういうことを言えるところだったら行ってみよう、というのが、意外とロコミで広がって行って、そういう専門的なものではなくても、自分の地域のそういうところを話せば。でも最後、結論を持っていくところを見ると、意外といい、いわゆる政策的な地域課題の解決策が最後はまとまっているみたいな。

もう結構実は前の話なのですが、こういう形って、ワークショップなり、こういうものを開くのにはいいきっかけだなというのは、ちょっと自分の経験で、もう20年ぐらい前の話なのですが、そんなことでなるほどと思ったことがあります。

◎日向委員長 ありがとうございます。確かに、政策決定プロセスと言うとかたい言い方になってしまうので、広がりやや欠けるかなと思ったのですが、私も言いたいことは、そういうかたい感じではなく、ここで聞いてみたいなというときにやるという、私も同じようなイメージだったのですが、もう少しふさわしい言葉を考えないといけないと思いました。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎中村委員 一つ、ちょっと今までの議論の流れから外れるかもしれませんが、市のほうから発信されるパブリックコメントってありますよね。パブリックコメントというのはある意味、市民参加の一形態だと思うんです。市が政策のアウトラインを出して、それに対して市からパブリックコメントを募るわけです。

ただ、それについては文書で出すわけですから、はっきり言って、私もパブリックコメントをどんな感じで、どんな人がどのぐらいの意見を寄せているのか、関心を持って見ているのですが、非常に少ないです。パブリックコメントで手を挙げている人というのは、いつも大体一桁みたいな形で、これじゃあちょっと、どうなのかなというのがあります。

あと、委員長がおっしゃったように、あまりかた苦しく考えないというか、自分の出した案が実際に市の行政、施策に反映されるかどうかという、かた苦しく捉えてしまう傾向にあるかもしれないけれど、私などはどちらかというところ、パブリックコメントでもし意見を言うならば、やはりそれは市の施策としてとり入れてもらいたいからパブリックコメントを出すと思うんです。

パブリックコメントが出てからのことをフォローしてみると、そのパブリックコメントに対して市からの回答がありますよね。それはあるのですが、実際にパブリックコメントが政策に反映されていないような気が、僕はしています。

そういう意味で、パブリックコメントのあり方というの、もう一度考えてみる必要は、私はあるような気がします。ちょっと、ワークショップと全然離れますけれど、それはなぜかというところ、先ほど申しましたように、リピートというか、パブリックコメントを応募してみようか、出そうかなという人が数が少ないというのは、あまりやっても意味がないような。ある意味、言い方は悪いのですが、パブリックコメントはガス抜きみたいなふう、僕は捉えるところもあるんです。ごめんなさい、ちょっと斜に構えた考え方で申し訳ないのですが、だったらもう、やらないほうがいいのかと。

パブリックコメントというものは市民参加の形態として大事なのですが、それに応募する人が少ないようであれば、やってもあまり意味がない。パブリックコメントのあり方も、私はちょっと、今後、そんなに件数が少ないようであれば、市としても考えたほうがいいのかという感じがします。パブリックコメントのやり方、周知の仕方。ちょっと、私もまだはっきりした方向性は持っていないのですが、パブリックコメントについては、今後ちょっと一考の価値があるのではないかという感じはしました。

◎日向委員長 ありがとうございます。ちなみに、パブリックコメントというのは、法律か何かで決まっているんですか。行政手続法ですか。

◎事務局 法律のほうもあると思いますし、市民参加条例を小金井市では持っていますので、それに基づいてパブリックコメントは実施をしています。

◎中村委員 パブコメって言葉は出ていないんですよ。市民参加条例の中にも、パブコメという言葉は、語句は1つも出てなくて。たしか4条だったかな。

◎日向委員長 読み上げますと、「市は、市民に対し、適切な時期に、市の政策立案、その決定、実施の理由及び内容、その内容を具体化する手段及び市の政策実施の評価並びに市民参加の方法について、市民にわかりやすい方法で十分に説明する責務を負う」。

◎中村委員 15条。ごめんなさい、15条です。

◎事務局 提言制度という形でパブリックコメントを説明しています。

◎日向委員長 なるほど。5章、市民の提言制度。確かにこれ、「パブリックコメントとも言われています」と書いてある。「市の施策原案に対して、市が市民に提言を求める制度は、本条の定めるところによる。市は、市民の提言制度の実施に当たっては、対象事項の内容、市民の意見の提示方法及び提出先並びに提示された意見の扱い方について、あらかじめ公表しなければならない」。

ほかにいかがでしょうか。そろそろ、鴨下委員、いかがでしょうか。

◎鴨下委員 小さいことしか。

◎日向委員長 何でも結構ですので。せっかくなのでご意見をお願いします。

◎鴨下委員 初めのころに中村委員がおっしゃっていた、数値的な目標を入れたほうがいいというのははすごく賛成で、ワークショップを原則として年1回やりましようとなったときに、やりました、という事実を挙げることは簡単だと思うのですが、そこに何パーセントぐらいの参加があったのかということも入れるといいのかなと思います。やはり、参加したことによる意義とかメリットというところをどうやって見出したらいいのかなと。そこが明確であると、参加がサイクル化されていくのかなと思ったり。ワークショップというのがあるって、市民参加しているのが当たり前の状態というのが、まず若者世代、20代世代にあるのであれば、そこを発信にした、下の世代につながって、何かもっとワークショップみたいなところに広げていけるといいのかなというふうに思っていました。

◎日向委員長 ありがとうございます。大事な意見だと思います。ほかにいかがでしょうか。

◎天野委員 先ほど、審議会の中でワークショップを一緒にやったのですが、森田さんのほうから、取っかかりとして使うというようなこともおっしゃっていただきました。

それで、審議会の中でワークショップをやってみて思ったのですが、議事録をとらないような形でワークショップをやったのですが、非常にいろいろな、市民の生の声が聞けるといって、粗削りなのだけれど、そういういい意見があるんだなという思いを僕は持ったんです。

だから、こうやって議事録を残すような形で、かたく意見を審議会で議論するというやり方の場ではあるのですが、あえて審議会の中でワークショップという手法をとって見て思ったのは、自由な、今日は議事録とらないんだね、みたいな感じで、みんな元気よく、本当に議事録に残せないような意見をいただきながら、でもそういうふうに思っているんだ、みたいなところを。

だから僕は、きのうやったばかりなのですが、行政がやるとどうしてもまとめて、小ぢんまりさせてしまうのだけれど、そういうワークショップで出たようなものを、粗削りなものを、どう出していくのか。それをまた審議会の中で削っていくとか、それなりのものに整えていけばいいのかなという思いも持ったので、ワークショップの手法の特徴とすれば、まずは話しやすくなるというか、取っかかりの部分で使えるんだとか、気軽に、本当の音が聞こえるようなチャンスの場合でもあるのかなとか、そういう特徴があるのかなと、きのう思ったところ

でございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。

今の天野委員の御意見というのは、例えばこの会議もそうですが、市が常設している会議の中で、どこか、公式にはできないけれど、非公式的にやってはどうかという。

◎天野委員 まあ、ワークショップという手法を審議会の中でとり入れて、成果として記録を残していく。そのプロセスとすれば、いろいろな生の意見があるので、それはどこまで残すかというのはあるのですが、そういう手法をとって、本音の声を聞いてみるみたいなのはおもしろいし、この間たまたま初めて、そういう方式の審議会の中で、ワークショップという手法をとって見たら、そういう気づきがあったなということがあったので、お話しさせていただきました。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 今、ワークショップの活用方法、幾つかアイデアがありまして、今、私は隣の市で大変な計画にかかわっているのですが、やはりしょっぱなのほうは、今、全体のワークショップをやっています。今度またワークショップがあるのは、討議要項という、議論のたたき台みたいなのをまとめて、もう一回ワークショップをやるのですが、そちらで皆さんに提案してやってもらうのは、もちろん、その中身についても議論をいただいて、またもんでいただくというのもあるのですが、キャッチコピーを考えてくださいというのを一個お願いしているんです。

どうしても、計画の目標とかだと、本当にこう、当たりさわりのないものが立つわけです。「輝かしい小金井」とか、「誰もが住みやすい小金井」とか、そんな感じで、言ってもいいけど、そりゃそうだよねと、どうしてもなってしまうのですが、大体行政だとそういうものなのですが、キャッチコピーというのは違う性質があって、みんなに響かなきゃいけないし、それを結局真面目に考えてもらっても考えられないので、皆さん考えてください、みたいな。

そうすると、恐らくとんでもない意見もたくさん出てきながら、でも結構おもしろい意見も出てくるかもしれない。なので、恐らくワークショップって、そういうやわらかいものを考えるときには意外に向いていたりするので、多分、本当に使い勝手っていろいろな形があると思うんです。

なので、恐らく政策の意思決定プロセスという表現ではなく、やわらかく書こうという思いも、私はすごく思っているのですが、何かちょっと、そういうやわらかい感じで、皆さんで意見を共有したり、あるいは、ちょっとだけ、これは、この中で一番突っ込まれてつらい表現が、実は1ページに書いてあって、下から3行目に「創発」という言葉を使っているんです、あえて。「創発」という言葉があって、これもなかなかこなれない日本語をあえて使っているのですが、これは本当は、生物とかが偶然生み出されて、偶発的にできたものが、だけどもある社会の仕組みを作っていくみたいなイメージなんです。人々がアイデアをやるときに、思わずとっぴなものが出てしまって、でも、それが共有されていくみたいなことをイメージして、あえ

てこの言葉を使っています。

そういうふうに、ワークショップっていろいろな地域課題を共有したり、見つけたりする、そこもちろん使えるし、かつ、それをみんなで共有するところにも使えるし、さらにそれをとっぴなものにしていくときも使えるので、恐らく行政がどれも苦手だったところで使えるという意味では、非常に有効なのかなというのがあるので、そういうアイデアなども少し盛り込んでいくのもいいかなと、今のお話を聞いていてちょっと浮かんだので。

ちなみに、それがうまくいくかどうかはわかりません。3月にやるということなので。でも、失敗も含めてだと思っていますので。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎森田委員 先ほど天野さんも、記録をとらないと。確かに、よくポストイットとマジックは使いますよね。あれはすごく目に見える形での重要な記録になると思うんです。書いて残したいのは、そのぺたぺた張っていくと、目に見える形で、あの人とここは似ているなとか、あとグループ同士で、あつちはああいう議論があったのかというところの自覚にもなるし、集約にもなっていくし。回を重ねれば、前はこういうふうだったけれど、今回さらに一歩進んでこういう形になりましたねというふうに、目にも見えると思うので、きちんと記録もとれると思います。

◎渡邊副委員長 これのメリットって、誰が言ったかわからないんです。

◎森田委員 うん、そこがいいんですね。

◎渡邊副委員長 議事録って誰が言ったかわかるので責任になっちゃうのですが、これは皆さんが楽しくやればいいので。アイデアは残るのですが、誰が言ったという責任は残らないので、その意味ではやりやすくなります。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎中村委員 ワークショップの考え方は、私はブレインストーミングで、やはり人の意見を批判したりしないことが基本だと思うんです。批判したりすると委縮して発言できないということがあるので、やはり基本はブレインストーミングでみんなのアイデアが出しやすくするように、人の意見を批判したりは一切せずに、これもいい意見だね、これもいい意見だね、そうだね、という感じじゃないですかね。

そんな感じでやはり、それが先ほどの、付箋でいろいろアイデアを出して、どんどん意見を出しやすいような環境に持っていくような形の仕掛けというか、人を批判させないというか。それでアイデアがどんどん生まれてくる素地が生まれるのではないかなと、私は思っています。

◎日向委員長 ありがとうございます。

それでは、そろそろ時間なので、これで終了してよろしいでしょうか。

以上で次第2（1）今期の提言に向けてを終了します。

次に次第2（2）次回推進会議の開催日についてを行います。

協議のため一旦休憩します。事務局より御案内をお願いします。

(休 憩)

◎日向委員長 再開いたします。次回は5月23日木曜日、夜7時から開催したいと思います
が、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎日向委員長 御異議なしと認めます。次回は5月23日木曜日、夜7時から開催いたします。
本日の議事は全て終了いたしました。以上で閉会いたします。

◎中村委員 場所はどこですか。

◎事務局 場所は決まり次第御連絡させていただきます。

◎渡邊副委員長 御意見をメール等でいただけると。

◎日向委員長 はい、私からいいですか。

今日は御議論いただきましてありがとうございました。多分、まだ十分に読めていない委員
の方もいらっしゃると思います。また、今日の議論でいろいろと新たな考えが出てきた委員の
方もいらっしゃると思いますので、とりあえずこのたたき台についての御意見を、2月いっば
いぐらいまでに事務局のほうにお寄せいただければと思います。

それを踏まえて、渡邊副委員長と私どものほうでまとめさせていただき、それをまた、会議
のできるだけ前の時間に、また改めて皆さんにフィードバックをさせていただき、そこで御意
見をいただくというプロセスを経て、次回の会議に臨ませていただければと思っておりますが、
そのようなやり方でよろしいですか。

(「はい」の声あり)

◎日向委員長 ありがとうございます。

では、次回の会議まではそのようなプロセスを経たいと思います。

ほか、よろしいですか。では、今日はお疲れさまでした。

(午後9時03分閉会)